オオカミ王子

POCHI07

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

オオカミ王子

【Nコード】

N7761T

【作者名】

POCHI07

【あらすじ】

バスケット好きな美少女の佐山朋子と同じくバスケット好きな原睦月。2人は大親友でしかも学校ではかなりの人気者。それと、睦月の幼馴染で運動神経抜群でかつこい天然少年の仁王ユージ、ただユージはかなりの自己中心人間だからほとんど人気がなくて友だちもほとんどいない。そんな3人の学校生活物語です！

クラス替え（佐山朋子）

クラス発表当日

「え〜、睦月と違うクラスじゃん」

「ほんとだ！嫌だな〜」

睦月と違うクラスとかシヨック〜

げっ、しかもオオカミ王子いるし

『オオカミ王子』っていうのは本名が仁王ユージの天然少年。運動神経めっちゃよくて顔もふつうにかっこいい。けど学校一自己中の男。かっこいいけどオオカミみたいな顔立ちと自分勝手なことからつけられたあだ名がオオカミ王子だ。

私もこの人苦手なんだよな〜

でも、睦月は仲良いよな〜

まあ、幼馴染みだからな

「じゃあね朋子、私も自分のクラス行くね！また部活の時ね！」

「うん、また後で！」

さ、私も教室入る〜

えっと・・・席はたしか窓際が一番後ろだったよな

「って、ええええ〜！！？」

「朋子どうしたの〜？」

「ああ、何でもないよ（^o^）ごめんごめん」

思わず声出したじゃん（*・*）

まさか隣がオオカミ王子とは・・・

しかももう寝てるし・・・

新しいクラスなんだから緊張とかしないのかな？コイツは！

でも、コイツが休み時間とかに友達といることってあるかな？あんな見ないなあ

まあコイツは頭良いくせに天然だからもしかして友達から嫌われてるのに気づいてないのかな

それにしても熟睡ですな

クラス替え(仁王ユージ)

俺の席どこだよ？

一番後ろかよ(*・・*)

とりあえず担任来るまで寝とくか(・|・)

zzzzzzzz

zzzzzzzz

zzzzzzzz

「痛った！」(*o*)

誰だよ(・|・)

つておい、担任かよ

「おい仁王寝るな!!!!」

「すみません」(・|・)

「ほんまに気を付けるよ!!」

うげえなあ(・|・)

「おい仁王!次お前だぞ!」

・・・(・|・)

「は?何が・・・ですか?」

敬語難しいな・・・じゃなくて今何してんの?

「お前まさか今何してるかわからないのか?大した度胸だな・・・」

(笑)「

きもっ

「(・?|・?) (・?|・?)」

「佐山!そこのバカに教えてやれ」

「は、い、今新クラスの自己紹介だよ」

めんどくせえ

だるい

「お、い、仁王君早くしてくれないかな、先生待ちくたびれちゃった」

気持ち悪いって（*・*）

「えっと、仁王ユージでテニスと陸上やってます……よろしく
誰も拍手しないんだ……」

別にいいけどさ

体育館（原睦月）

キュツ、キュキュツ

ダンダン

まだ誰も来てないな

てか、うちのクラス終わるのはやかっただからな

それにしても1人でバスケするのも暇だし、なんか寂しいな

てか、去年まではユージずっと1人で早く練習来て自主練してたんだよな

休みの日なんて練習が夕方からなのに朝から学校来て自主練してたよなあ

本当に天然だよ

今日は男子と女子で半分ずつか

もっと体育館広く使いたいな

てか、どうせ男子1回戦負けでしょ

ユージがいたらなあ

まあでもあんな事になったらやめるよね普通は

あ、みんな集まったし練習はじめよ

「すまん、みんな、先生ちよつと用事があるから20分くらい休憩したり自主練しといてくれ」

「は〜い」

「睦月、新しいクラスはどう?」

「う〜ん、まあまあかな・・・朋子は?」

「楽しいよ普通に」

「いいなあ〜クラス交代しようよ〜」

「い〜や」

「あ、先生戻ってきたよ」

「みんな、集合しろ！」

「はい、先生何ですか？」

「ああ、今から男子と交互に5対5の練習するぞ」

「やったあ〜」

5対5（佐山朋子）

「はい、次は女子の5対5やるよ」

「は〜い」

やった〜私のチームまあ良いメンバーだ！私に睦月、真奈先輩と光ちゃん、雪ちゃんだ

ジャンプボールは光ちゃんが勝つよね

てか、ボールこつち来た！

もうDF詰めてきてるし！とりあえず1人は抜いとこ〜

「1本落ち着いて行こう」

このチームだと私がPGで真奈先輩がSG、睦月はSFだよ

PFは雪ちゃん、Cは光ちゃんか、雪ちゃんとこのミスマツチ使って攻めようかな

てか、まずは私にできることからしよう！

てことで1on1！

レッグスルーからロール

よし抜けた！ここから左サイドコーナーにビハインド・ザ・バックパス、睦月がいるはず

やつぱりいた！睦月とはもう5年もコンビ組んでんだから睦月のパスもらいたい場所くらいわかる

「ナイスシュート、睦月」

「朋子もナイスパス！」

あ、光ちゃんナイスリバウンドだ、私がパスもらいに行かなきゃ

「光ちゃん、こつち！」

よし！ファストブレイクのチャンスだ

「みんな走って！」

真奈先輩フリーだ！

「先輩！3P!!!」

うわっ、真奈先輩のシュートフォーム相変わらずカッコ良すぎ！女子だけど男子よりも遙かに綺麗なワンハンドシュート
憧れる……

陸上部（仁王ユージ）（前書き）

登場人物を先に紹介します

葉山走太・・・2年で陸上部キャプテンで県トップランナーの100mと200m専門。優しいキャプテンで有名

東絢奈・・・2年の陸上部員で3000mと駅伝、走り高飛び専門。顔はかわいくて怖いもの知らずでやっぱり天然。

羽田裕次郎・・・1年の陸上部員で100mとハードル専門。童顔でかわいい後輩

九山美穂・・・1年の陸上部員で1500mと駅伝、走り幅跳び専門。顔がめっちゃくちゃかわいいけどおしゃれのセンスがひどすぎたり普段は眼鏡をしているから普通に見える

陸上部（仁王ユージ）

「2年の仁王ユージです。長距離希望です。よろしくお願いします」

「よろしく、ユージ！」

「おう、走太、よろしくな！」

それにしても俺をあわせて全部員5人つてすごいな・・・

まあいいか、あんまり人数が多いとまたあの時みたいになるからな

「ようし、練習始めるぞ！短距離の裕次郎はこっち来い！ユージ、

お前は長距離だから絢奈たちに混ざれ」

「オツケー」

つてか、長距離が男1人と女2人つて寂しすぎる・・・

「おい、アヤナ〜入れて〜俺も長距離だから」

「うん、じゃあストレッチからね」

「わかった〜」

「ね〜ユージつてバスケ部じゃなかったけ？」

「辞めた・・・いいじゃん別に」

「何で辞めたの？・・・あつ、ごめん」

「別にいいけど」

てかマジでその話やめてほしいよ、傷口広がる（* - *）

「ユージ、ストレッチ終わった？」

「うん」

「じゃあ、走ろうか」

「おう！」

「あつ、でもまだ美穂ちゃん来てないしな〜じゃあとりあえず美穂
が来るまで休憩しよ〜・・・てかさ〜本当にいいの？バスケ辞めて

「しょうがないじゃん」

「ユージつてかなりバスケで有名だったんでしょ」

「それ以上につまんなかったんだよ」

陸上部2（仁王ユージ）

「絢奈先輩、遅れてすいません」

「いいよいいよ、私もさつき来たところだから。それより早く着替えてきてね、新入部員いるから」

「ホントですか！？やったー5人目だ！」

わかったから早くしろよ」

てか、こいつあの超可愛いのにダサイことで有名な九山美穂じゃんあつ、やつと来た

「こいつは2年の仁王ユージ、私たちと同じ長距離だから」

「よろしくな」

「よろしくお願いします、先輩！」

「じゃあ、走るよ！」

「おう！で、練習メニューは？」

「アップで3km位走ろうか、その後インターバル走ね」

マジかよ、アップで3kmかよ・・・

「はい、今日は終わりよ、しっかりとクールダウンしといてね」

「あ、絢奈先輩、ユージ先輩、私マッサージしますよ」

「あ、よろしくよ、ユージもやってもらいな」

「ああ」

てか、他人に体あんま触られたくないんですけど・・・

「ねえよユージいいの？」

「何が？」

「何がって、あんた友達少ないじゃん」

「そうなんですかよ！？1年生の間ではユージ先輩かなり人気ですよ」

「別にいいじゃん、だいたいあの事知ってたのに知らない振りして

「た奴がほとんどだし」

「てかさ、なんであんな事になったの？教えてよ」
「うん」

仁王ユージの過去（原睦月）

「あゝ今日は外練か」

「そうだね、朋子」

「あつ、見てみて！オオカミ王子と絢奈ちゃんと1年生の美穂ちゃん
んが3人仲良く走ってる！」

「ああ、ユージ陸上部入ったって・・・」

「それにしてもオオカミ王子楽しそうに話してるね」
本当だ・・・

いつからだろう？ユージが笑わなくなったり暗くなったのは
去年までは性格も良かったのにあの事以来性格が180°変わった
あの事のせいでユージは変わったんだ・・・

ユージは1年からバスケ部のエースだった

毎朝早く学校に来て1人で練習をしていたし夕方最後まで残って
いた

地区大会で男子は優勝したけど試合内容はひどかった

毎日の練習量がみんなと違うユージはチームメイトと動きが噛み合
っていなかった

それは誰が見てもレベルが違った・・・ユージはチームの中でかな
り浮いていた。かわいそうなくらいに

結局試合はユージのワンマンプレーで勝ったようなものだ。実際、

ユージがチームの得点の半分以上を取っていた

他のみんなは優勝したのに不機嫌だった・・・

その日以来ユージはみんなから無視をされ始めた。それは日に日に
ひどくなっていた

私は幼馴染みがそんな目にあっていると知らずのんきに過ごしていた

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7761t/>

オオカミ王子

2011年10月9日01時32分発行